

氏名	西 原 幸 一
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1379 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年 6 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	マウス癌漿膜浸潤に対する B C G , Levamisole (L M S) の 効果および形態学的検討
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 小川勝士 教授 木村郁郎

学位論文内容の要旨

癌の漿膜浸潤の成立機序を形態学的に検索するため、マウス腹壁を腸管壁とみなす実験モデルを作製した。すなわち DDS マウス腹壁皮下に Ehrlich 腹水癌細胞を移植し、漿膜とみなした腹膜に腫瘍が浸潤する形態を経日的に観察した。さらに BCG と Levamisole を腹腔内に投与し、それらが腫瘍の増殖と腹膜播種に対しいかなる効果をもたらすかを腹膜の形態学的変化と腫瘍径・延命率でもって検索した。

- 1) 腫瘍移植後 7 日目には腹膜細胞の軽度の哆開がみられ、10 日目には腹膜細胞は膨隆し、その細胞間隙の哆開は著明となり、哆開部より腫瘍細胞の露出がみられた。
- 2) BCG 接種では感作群（腫瘍移植前接種）は 7 日目に腹膜細胞表面の microvilli が密になり、網目状機造を呈したり、毛ば立ちを呈していた。この変化が腹膜細胞間の結合を増強し、腹膜面浸潤の防止に働いていると考えられた。抗腫瘍効果は感作群が非感作群に比して良く、特に感作+腫瘍移植後 3 日目よりの週 2 回接種群が一番効果的であった。
- 3) LMS 投与では BCG 接種時ほど腹膜細胞表面の microvilli の変化は強く認められなかったが、対照群に比してやはり microvilli の密度が増加していた。抗腫瘍効果は BCG ほど強く認められていないが、腫瘍移植後 14 日目よりの投与群で腫瘍の退縮がみられた。

論文審査の結果の要旨

本研究はマウスの腹壁皮下に Ehrlich 腹水癌を移植して腹膜浸潤の成立機序を形態学

的に検索し BCG および Levamisole の漿膜浸潤に対する効果について重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。